

みどりとともに

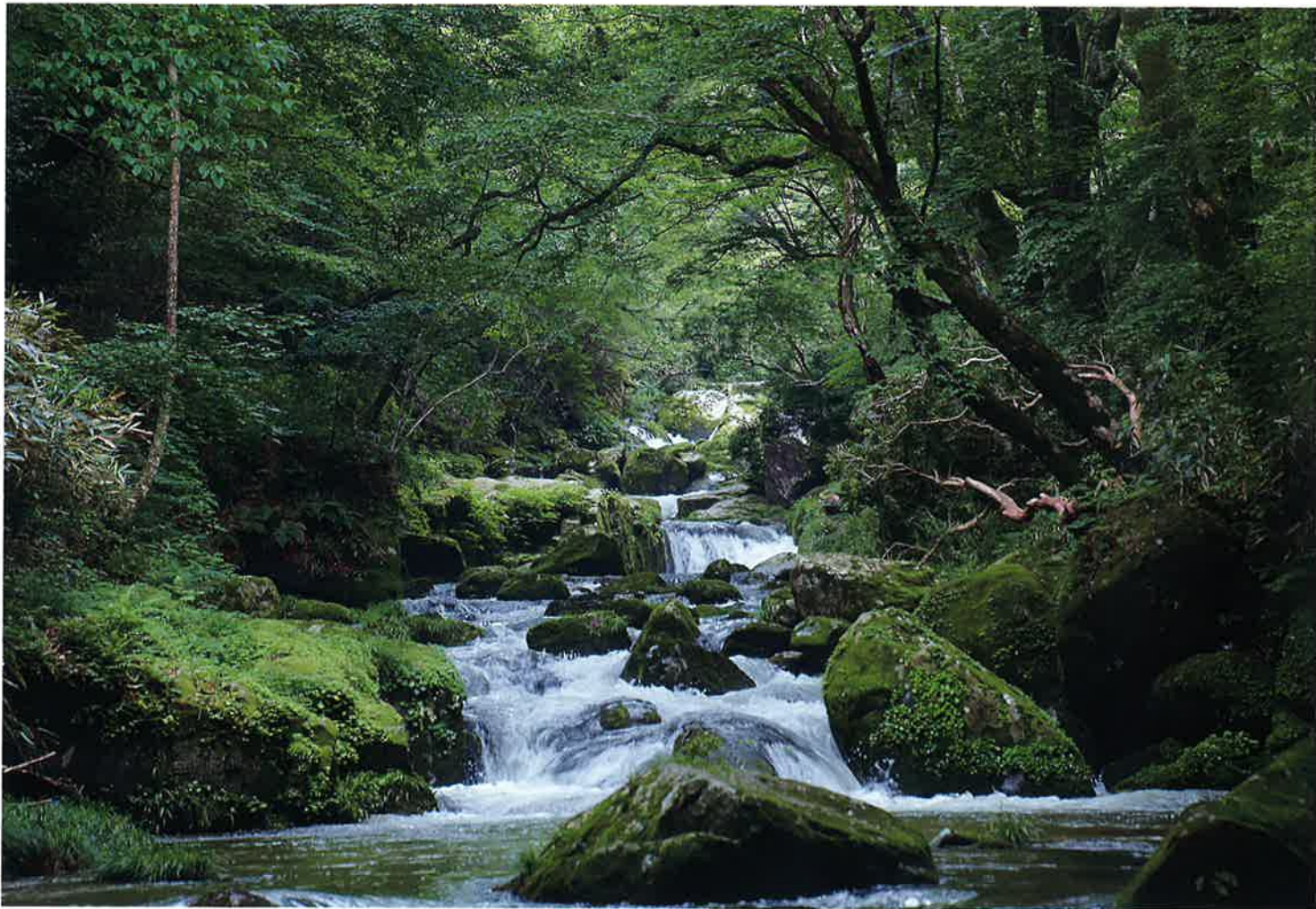
第 28 号

2014 年 8 月 1 日

一般社団法人 茨城県治山林道協会

水戸市三の丸 1 丁目 3 番 2 号

林業会館 3 階



❖❖❖❖ も く じ ❖❖❖❖

森林・林業の再生における路網の役割について	2~3
常陸大宮市におけるバイオマス・林道事業について	4
里地・里山・里桜になにを見るか	5
協会だより	6~7
1. 平成26年度定時総会の開催	
2. 平成25年度茨城県民有林治山・林道関係コンクール表彰	
・4月1日より一般社団法人茨城県治山林道協会として再スタート	
協会の主な動き	8



森林・林業の再生における 路網の役割について

茨城県農林水産部 林業課

1. 森林・林業の再生に向けた取組みの強化

現在、我が国の森林は、年平均で約1億^m³ずつ蓄積が増加しており、平成24年3月末現在の蓄積は約49億^m³となっています。このうち人工林は約30億^m³で6割を占め、資源として本格的な利用が可能な段階を迎えようとしています。

一方、国内の林業は、依然として厳しい状況に置かれており、森林資源が十分に活用されないばかりか、必要な施業が行われずに多面的機能の発揮が損なわれ、荒廃が危惧される森林も散見される状況となっています。

このような状況を受け、県としましては、平成23年に策定した「森林・林業振興計画」に基づき、木を植え、育て、伐採し、木材を有効活用する「緑の循環システム」の確立を目指し、「林業の再生と元気な担い手づくり」、「県産材の利用拡大と安定供給体制づくり」、「機能豊かな森林の育成と活力ある山村づくり」の3つを柱として、現在、間伐や木材利用、県民協働の森林づくりなどの各種施策に取り組んでいます。

間伐につきましては、平成20年度に導入した森林湖沼環境税を活用することなどにより、ここ数年は、年間2,000ha前後と高い水準で推移しています。また、宮の郷工業団地に整備された木材関連施設については、順調に稼働しており、取扱量が年々増加傾向にあります。さらに、これに隣接して木質バイオマス発電施設の整備が進められており、今後、県産材の一層の利活用が進むものと期待されています。

一方で、増加が見込まれる原木需要に対応するためには、施業の集約化や林道をはじめとする林内路網の整備、さらには高性能林業機械の導入を進め、素材生産から搬出までの低コスト化を図り、素材生産から流通に至る円滑な原木供給体制を構築していくことが不可欠となっています。

2. 林内路網の現状

林道をはじめとする林内路網は、造林、保育、素材生産等の施業を効率的に行うためのネットワークであり、林業の最も重要な生産基盤です。

しかしながら、本県をはじめ我が国では、急傾斜地に存在する森林が多いことに加え、小規模な森林所有者が多数を占めることなどから、路網の整備が十分に進んでいるとは言い難い状況です。

本県の林内路網密度は、平成25年度末現在25m/haであり、全国平均の19m/haと比較すると高い値となっていますが、世界に目を向けると、林業先進国のドイツでは118m/ha、我が国と同様に国土が急峻なオーストリアにおいても、1990年代半ばの時点で89m/haと世界的に見れば低位な状況となっています。

また、我が国におけるこれまでの林内路網整備は、各地において考案された方法により進められてきましたが、我が国の森林は多様で厳しい自然条件にあることから、作設した路網が損壊する事例も見受けられたため、丈夫で簡易な路網作設の基本的事項の整理が求められてきました。



図-1 路網整備の種類と役割

このため、国では平成22年度に路網を構成する道の区分を、一般車両の走行を想定した「林道」、10トン積程度のトラックや林業用車両の走行を想定した「林業専用道」、フォワーダ等の林業機械の走行を想定した「森林作業道」の3区分に整理し、これらを適切に組み合わせた路網の整備を進めることとしました。

(前ページ図-1参照)

また、平成23年度に見直された「全国森林計画」では、作業システムを車両系と架線系に分け、傾斜区分に応じた路網整備の目標とする水準が示されました。(表-1参照)

本県で最も多いと考えられる中傾斜地(15°~30°)における車両系作業システムの場合の目標は、75m/ha以上とされています。

表-1 路網整備の目標とする水準

区 分	作 業 シ ス テ ム	路 網 密 度
緩傾斜地(0°~15°)	車両系作業システム	100m/ha以上
中傾斜地(15°~30°)	車両系作業システム	75m/ha以上
	架線系作業システム	25m/ha以上
急傾斜地(30°~35°)	車両系作業システム	60m/ha以上
	架線系作業システム	15m/ha以上
急峻地(35°~)	架線系作業システム	5m/ha以上

3. 林内路網整備の加速化への取組み

現在、県においても、林内路網整備の加速化を図るため、これまでの路網整備に加え、新たな区分となる林業専用道や森林作業道の整備に取り組んでいます。

林業専用道については、県が事業主体となり、常陸太田市の県有林内において、2路線、計画延長5,041mの整備を進めています。

(写真-1参照)

また、平成24年度には、市町村や森林組合が事業主体となり整備する林業専用道に対し、県が国庫補助金と森林湖沼環境税を財源に経費を



写真-1 林業専用道小里郷線の整備状況

全額補助する「林業専用道整備モデル事業」を創設しており、現在、笠間市がこの事業により、1路線、計画延長1,900mの整備を進めています。

さらに、森林作業道については、森林整備加速化・林業再生基金を活用し、森林組合をはじめとする林業事業体が事業主体となり、これまでに約31,000mを整備しています。

しかしながら、前述の国が示す路網整備の目標とする水準には未だ程遠い状況であるため、県としては、引き続き整備の推進を図ることとし、必要な措置を講じていきたいと考えています。

4. 終わりに

森林・林業の再生を図るためには、路網整備の推進を含めた低コスト作業システムの確立や県産材の利用拡大と安定供給体制づくりなどを有機的に進めていかななくてはなりません。

県としましては、様々な施策を積極的に講じることにより、本県の森林・林業、ひいては我が国の森林・林業の再生に向け尽力してまいりたいと考えておりますので、引き続き、森林所有者をはじめ、市町村や森林組合、さらには林業事業者等の皆様のご支援とご協力を賜りますようお願いいたします。

町から
村から

常陸大宮市におけるバイオマス ・林道事業について

常陸大宮市 経済建設部農林課

1.はじめに

常陸大宮市は、平成16年10月16日に旧大宮町、旧山方町、旧美和村、旧緒川村、旧御前山村の合併により誕生した市で、茨城県の北西部に位置しており東部に久慈川、南部に那珂川の二大河川が流れ、その中央部を緒川及び玉川が流れています。

今回、常陸大宮市が取り組む木質バイオマス利活用事業及び林道事業について紹介します。

2.木質バイオマス利活用事業について

本市総面積の6割を占める森林は、林業生産活動の鈍化傾向により、未利用間伐材等が放置され林地残材が増加している状況にあります。

本市では林地残材を木質バイオマスエネルギーとして利用することで、低炭素社会の実現を図り、またエネルギーの地産池消による地域経済の浮揚を図るため、木質チップの製造施設を整備し、木質バイオマスボイラーを市内の温泉温浴施設への導入を進めています。

○ 事業概要

- ・チップ製造施設の建設
- ・機械の導入(破碎機、林業用グラップル等)
- ・チップボイラーの導入(市内温泉温浴施設：ささの湯、三太の湯、四季彩館)

※ 平成26年度、一部供用開始予定。



切削型チップ製造機

3.林道事業について

林道を整備することにより、森林へのアクセスが確保され、林産物の搬出・森林管理の効率化の役割を果たしています。

本市においては66路線、総延長106,089mを管理しており、平成26年度は、御前山地域の林道膳部沢線、山方地域の林道諸沢北富田線の2本を開設しています。

○ 林道 膳部沢線

- ・事業年度：平成14年度～平成28年度（予定）
- ・計画延長：1,380m
- ・開設済み：1,081.4m（平成25年度末）

○ 林道 諸沢北富田線

- ・事業年度：平成21年度～平成34年度（予定）
- ・計画延長：653.77m
- ・開設済み：124.8m（平成25年度末）



工事の様子(林道 膳部沢線)

4.おわりに

本市ではこれまで、林道等の整備や計画的な造林、間伐等を進め森林の保全、林業の振興を図ってきました。

今後は、さらに林道等の基盤整備や木質バイオマスなど環境に配慮した森林資源の有効利用など、特色ある林業の振興を目指します。



里地・里山・里桜になにを見るか

いばらき森林づくりサポートセンター

吹く風を 勿来の関と 思えども 道もせに散る 山桜かな

千載和歌集に収められた八幡太郎義家の歌である。

勿来は当時、常陸国（茨城県）に属していたと1300年前の常陸国風土記はいう。

蝦夷が跋扈し先住民族カカセオ（星神）が陣取る日立市の石名坂を戦い抜けた国譲りの英雄タケミカズチ（鹿島祭神）が征伐をあきらめて引き返した勿来の関（いわき市）にこの歌碑がある。

稲作が始まると山桜は農耕の始めを告げる生命の花であり信仰の聖木となった。それが美の対象として庭に持ち込まれ里桜と変身し貴族の花となり美しい乙女に昇華する。里桜は、大和王朝の花宴（法桜会）によって国花（華）となったのである。

この歌は、都市文化を基礎にした貴族の美意識が勇猛で少々野蛮と言われた武士に引き継がれた歴史的な歌といわれている。

写真は、大子町の穏やかな田園風景である。



里地・里山と満開の桜(棚田の代かき)

遠くの山並、造林地 雑木林 集落 小屋 棚田真中を貫く真竹と桜に縁取られた小川、なんともいえない農耕民族の懐かしい原風景がここにある。

でも田は、土木技術で土地改良され、農器具は化石燃料で走り、桜はソメイヨシノかもしれない。

人里・里山・奥山で区分され人間の住む人里、獣の住む奥山、そのバッファゾーンとして共有してきた里山が消え、限界集落に住む人達は、自分で作った檻に自分が囲われ食料を作り生きている。

最近、森林・山村の持つ多面的機能を回復させようと林野庁は、経営放棄された里山、特に放置された人工林（杉林）に竹が侵入して見るも無残な林分を整備するために第三者（森林ボランティア）の労働力投下を集めている。しかし2000年以上続いた里山も目的を失っては再生できないことは自明の理、流れに逆らわず自然遷移にまかせて新たな目的を与えることが重要かもしれない。

道もせに散る 紅葉かな

山桜を筆頭にした生物多様性を絵にしたようなこの林道と森林、先駆樹種である落葉広葉樹この扱い方こそ里地・里山を活性化するもっとも重要なキーワードなのでは、ないだろうか。



里山再生のキーワード
(林道と落葉広葉樹林)

(文:田村輝穂 写真:神長輝夫)

(6) みどりとともに

協会だより

1.平成26年度 定時総会の開催

一般社団法人に移行して初めてとなる平成26年度定時総会が6月20日(金)、水戸市内の茨城県市町村会館において、会員数23名、うち委任状出席を含め23名において、開催いたしました。

当日は、大久保太一副会長(常陸太田市市長)の開会のことばに続き、山口伸樹会長(笠間市長)より「昨年は台風や集中豪雨など全国各地で大規模災害が発生した1年でしたが、本県でも9月、10月の台風により甚大な被害を受け、治山事業の重要性を痛感した。また、災害に強い森林を整備・保全する上で林道は必要不可欠であり、山村地域の活性化と生活環境の改善にも重要な役割を果たす施設でもあり、計画的な整備の必要性を再認識した。

なお、公益法人制度改革への対応について、昨年度、一般社団法人の認可を県よりいただき、本年4月1日付けをもって登記を済ませた。」とあいさつがありました。



あいさつする山口会長

総会には、来賓として後藤四朗県農林水産部理事兼次長、石川多聞県林業協会理事長・県議会議員、山田壽夫(一社)日本治山治水協会専務理事をはじめ県の関係幹部職員や各関係団体代

表の方々など多数のご臨席を頂き盛会のうちに開催されました。

議案については、山口会長を議長に選出し、議案第1号から第5号まで、原案のとおり可決承認されました。また、平成26年度事業計画並びに収支予算についても報告しました。

〈提出議案〉

- 議案第1号 平成25年度事業報告並びに収支決算について
議案第2号 平成26年度会費の賦課及び徴収について
議案第3号 平成26年度借入金の最高限度額の決定について
議案第4号 平成26年度役員報酬の決定について
議案第5号 役員改選について
報告事項 平成26年度事業計画並びに収支予算について

[役員名簿]

役職名	所属	氏名	備考
会長	笠間市長	山口伸樹	
副会長	常陸太田市市長	大久保太一	
理事	北茨城市市長	豊田稔	
理事	常陸大宮市長	三次真一郎	
理事	鉾田市市長	鬼沢保平	
理事	桜川市長	大塚秀喜	新任
理事	大子町長	益子英明	
専務理事	事務局	鬼澤昭和	
監事	城里町長	阿久津藤男	
監事	石岡市長	今泉文彦	新任

2. 平成25年度茨城県民有林治山・林道関係 コンクール表彰

◇第36回 林道維持管理コンクール

森林の整備、山村の活性化に寄与する林道について、適正な維持管理を推進し、林道機能の保全と通行の安全確保を目的とし、県の協力を得てコンクールを実施しました。

入賞路線は、次のとおりです。

区分	管理者	路線名
知事賞	大子町	大塩・後沢線
農林水産部長賞	常陸大宮市	諸沢線
治山林道協会会長賞	高萩市	中戸川・土岳線
〃	常陸太田市	繁千寿線

◇第14回 治山・林道木材使用工事コンクール

民有林治山・林道工事における木材の使用を促進するとともに、技術の向上を目的とし、県の協力を得てコンクールを実施しました。

入賞路線は、次のとおりです。

区分	事業名	請負業者	備考
知事賞	平成23年度 奥地保安林保全緊急 対策事業 第1号	山川建設(株)	治山 工事
農林水産部長賞	平成23年度補正 海岸防災林造成事業 第5号	(株)内田建設	治山 工事
治山林道協会会長賞	平成24年度 保安林緊急改良事業 第4号	(株)ミドリヤ	治山 工事

4月1日より一般社団法人

茨城県治山林道協会として再スタート

社団法人茨城県治山林道協会は、平成26年4月1日に一般社団法人茨城県治山林道協会へ移行しました。

公益法人制度改革に基づく組織の見直しを行い、平成25年5月29日に開催された第34回通常総会において「一般社団法人への移行申請・定款の変更(案)、諸規定の制定」が承認されました。

その後、平成25年7月10日付け、県に移行認可申請書を提出し、9月4日に県の総務課担当者と修正確認の打合せを経て、12月6日の第9回茨城県公益認定等審議会において審議され、平成26年3月20日付けで移行認可があり、4月1日付けで設立登記が完了しました。

これからは、治山事業及び林道事業の拡充強化並びに技術の向上により、県土の保全・水資源のかん養及び林業の振興を図り、もって公共の福祉の増大に寄与することを目的とする「一般社団法人茨城県治山林道協会」として再スタートいたしましたので、今後とも皆様方のご指導、ご協力をよろしくお願いいたします。



コンクール受賞者の記念撮影



○ 協会の主な動き ○

1月～6月

- ▲ 1月10日
明日の茨城づくり新春の集い(水戸市)
- 1月16日
(公社)茨城県林業協会第4回幹事会(水戸市)
- 1月20日・21日
治山施設災害査定
- 1月21日
全国治山林道協会会長会議(東京都)
民有林振興会総会・セミナー(東京都)
- 1月22日
(公社)茨城県緑化推進機構 第2回理事会
(水戸市)
- 1月23日
林業団体合同新年の集い(水戸市)
- 1月24日
茨城林業・木材産業シンポジウム・
意見交換会(水戸市)
- ▲ 2月6日
茨城県農林水産振興協議会セミナー(水戸市)
- 2月13日
第5回「新たな木材利用」事例発表会(東京都)
- 2月19日・20日
治山林道コンサルタント技術研究会(東京都)
- 2月20日
公益法人等の新制度移行後の法人運営と定期
提出書類の作成等に関する研修会(水戸市)
- 2月21日
茨城県林業種苗協同組合通常総会(水戸市)
- 2月25日
茨城県林業技術センター 研究成果発表会
(那珂市)
- 2月28日
関東森林管理局との意見交換会(群馬県)
- ▲ 3月13日
美和木材協同組合 創立50周年記念式典
(水戸市)
- 3月19日
(公社)茨城県林業協会第5回幹事会(水戸市)
- 3月24日
第3回理事会(水戸市)
- 3月27日
(公社)茨城県林業協会第4回理事会(水戸市)
- ▲ 4月9日
都道府県森林土木コンサルタント連絡協議会
通常総会(東京都)
- 4月14日
緑の街頭募金(水戸市)
- 4月16日～18日
会計実地検査
- 4月25日
関東森林管理局 意見交換会(群馬県)

- 4月30日
(公社)茨城県緑化推進機構第1回理事会
(水戸市)
- ▲ 5月2日
(公社)茨城県林業協会第1回幹事会(水戸市)
- 5月13日
監事会(水戸市)
(公社)茨城県林業協会第1回理事会(水戸市)
- 5月20日
(公社)茨城県緑化推進機構通常総会(水戸市)
- 5月21日
第1回理事会(水戸市)
- 5月23日
茨城県森林組合連合会通常総会(水戸市)
農林水産業関係団体連絡会第11回定期総会
並びに事務局会議(水戸市)
- 5月26日
茨城県木材協同組合連合会通常総会(水戸市)
- 5月28日
(公社)茨城県林業協会定時総会(水戸市)
- 5月29日
茨城県林業土木事業協同組合通常総会
(水戸市)
- ▲ 6月1日
第65回全国植樹際(新潟県)
- 6月20日
平成26年度 定時総会(水戸市)
- 6月24日
(公社)茨城県林業協会第2回幹事会(水戸市)

今後の予定

- 8月18日 茨城県民有林治山・林道関係
コンクール審査会
- 9月9日 (一社)日本治山治水協会定時総会
- 10月9日 全国治山林道協会会長会議
- 11月17日 日本林道協会総会
治山・林道工事コンクール表彰式

「みどりとともに」

(年2回 発行)

一般社団法人 茨城県治山林道協会

編集・発行 山口 伸樹

水戸市三の丸1丁目3番2号

林業会館3階

TEL 029-225-7280

FAX 029-225-7582

<http://business2.plala.or.jp/iba-crk>

e-mail:chisan@atlas.plala.or.jp

表紙の写真:「花貫川の溪流と森林」
(高萩市大能地内)
神長輝夫氏撮影